（様式1）　　平成　24　年度

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2875201119		
法人名	合資会社けやきの家		
事業所名	グループホーム　けやきの家		
所在地	〒651-2124　神戸市西区伊川谷町潤和1355-8		
自己評価作成日	平成２４年３月１５日	評価結果市町村受理日	平成24年5月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2875201119&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　姫路市介護サービス第三者評価機構
所在地	姫路市安田三丁目1番地　姫路市自治福祉会館6階
訪問調査日	平成24年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者6名の施設なので、一人ひとりの入居者と接する時間を多くつくる事ができ、入居者の方からも、共に暮らす中でいろいろな事を教えていただく機会をたくさんつくっている。そして職員は、入居者一人ひとりの思いに寄り添い、入居者の方が施設において自分の持っている力を発揮し、やりがいをもった暮らしができるよう介護計画をたて実践している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

閑静な住宅街にある定員6名の事業所は開設10年目を迎えすっかり地域に馴染んでいる。建物も含め、1つの家族が暮らす普通の家庭という印象を受ける。入居者・職員共に穏やかな表情で和気あいあいとした雰囲気が漂う。昼食準備では介護する側、される側の境がなく、個々のできる役割が習慣づけられている。介護度が高い方も車いすを座りやすく工夫し離床に努めるなど、できることを拡げる支援をしている。昨年より管理者が代わった。一人ひとりの思いに寄り添った、スケジュールに縛られない余裕のある介護を心掛けている。初めて家族参加の花見の計画があり、楽しみにされていた。家族の力も頼りにした更なる拡がりに期待する。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた施設の在り方を会議などを通じて学習し、職場で活かせるよう努めている	事業所独自の理念を持っている。～誇りと自信を持ちできる事を拡げ、できないことに手がとどく～支援を目指している。月1回の学習会で話し合い、計画にも盛り込んで実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、自治会の班長として入居者の方とともに、自治会の活動に参加、地域住民として関わりを持っている	自治会に加入している。広報の配布や入居者と集会にも参加し、地域の一員としての役割を果たしている。散歩時には挨拶を交わし、介護保険の質問を受けるなど、馴染みの関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の個々の相談や民生委員さんからの相談などに応じている。また、それ以外にも、施設が地域に今後どういった形で貢献できるか模索している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で、施設や入居者の状況報告を行い、出席者の方々に意見を伺いサービスに活かすようにしている	家族代表･民生委員･地域住民･地域包括支援センター職員･同区のグループホーム職員などが参加し、2ヶ月に1回開催している。状況報告の他、地域情報を得たり同業者の助言を受けるなど、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて協力していただいたり、情報を地域包括センターに聞くなどしている	地域包括支援センター職員に運営推進会議へ参加してもらっている。2ヵ月に1回、市の職員も出席する西区のグループホーム連絡会に参加し、実情を伝え情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に職場会議などで、職員全員に身体拘束について学習し、日常的に実践している。玄関の施錠も日中は行っていない	年1回身体拘束についての学習会を実施している。身体拘束にあたる具体的な行為を理解し、玄関の施錠も含めて身体拘束をしない支援を行っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に職場会議などで、職員全員に高齢者虐待について学習。また、不適切ケアにおいても職場で常に意識がいくように指導している	前年度は3回虐待の学習会を実施した。現場で不適切ケアが行われていないか常に注意を払っている。職員のやりがい作りに尽力し、ストレスに感じないよう配慮している。職員の不満や悩みは十分聞くようにしている。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会に出席し、職場に伝達している	現在制度を活用されている方はおられない。前回の第三者評価受審後、外部研修に参加し伝達研修を実施している。	前回の研修から2年、もう1度成年後見制度について学び理解してほしい。身寄りのない入居者や地域の一人暮らしの方も視野に入れ、パンフレットを備えるなど必要とされる方に活用できるよう支援してもらいたい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	文書をもとに説明し、理解していただいている。また、疑問や不安があることに関しては、いつでも相談に応じている	契約書･重要事項説明書を読み上げ、漏れの無いよう十分な説明をし、理解･納得を図っている。重度化した場合の指針についても契約時に説明し、本人･家族に同意を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や会議の出席時に要望があれば伺うようにしている	運営推進会議に家族代表に参加してもらっている。2ヵ月に1回「けやきだより」と共に介護計画を送付し、意見を返送してもらっている。今年4月に要望を受け、初の花見のイベントと併せての家族会を持つ予定である。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常勤者会議や職場会議、個々の面談を通じて意見を聞くようにしている	月1回の全体会議で意見･提案を聞いている。6ヶ月に1回個別の面談時にも意見を聞く機会がある。管理者と職員間のコミュニケーションは良好で、いつでも意見･提案を言い出しやすい環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	会議や研修などを通じて職員のやりがい作りを心掛けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月行っている職場会議の学習会や研修にて、職場全体の質の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会に参加し、同業者と交流したり同規模のグループホームと相互交流を行っている		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設に入居される前から本人と話し合い、施設に入居してからどんな生活を送りたいか、また、何か要望はないか話し合い、記録する。入居後、その要望が叶うよう努めた。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今年度、新しい入居者は1名入られたが、身寄りがほとんどおらず、本人の希望や要望を聞くのみとなった		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前から本人との話し合いの中で必要な事を見極め、記録し対応した		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔のこと、本人の得意なことを通じて、職員も入居者の方からいろいろなことを教えていただいている。また、それによって入居者自身も人生の先輩として、自分より若い職員に物事を教えられる喜びを感じていただいている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の本人への思いを理解し、いつまでも良い関係が作れるように努めている		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで生活していた場所、好きな場所に行く機会をつくり、馴染みの生活が可能な限り続けられるよう支援している	馴染みの関係を把握できるようセンター方式を利用し、家族と一緒に馴染みの喫茶店に行ったり、利用していた美容院に行けるように支援している。入居者が以前暮らしていた近くの劇場に芝居を見に行った事例もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が一緒になって家事や買い物に行く機会をつくり、共に支えあえるような環境づくりに取り組んでいる		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて家族の方に相談や情報提供などの支援を行った		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いに寄り添い、可能な限り本人の希望する生活ができるよう支援している	センター方式を利用して思いや意向の把握に努めている。日々の会話やしぐさなどから、常にやりたいことや楽しいと思えることを見いだせるよう尽力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中で、今までの生活環境を知る努力をしている。わからないことは、家族の方に教えていただいている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態、その日の体調に応じ、できる事できない事を見極め支援している。また、暮らしていく中で、今まで経験のないことでも、やってみる機会を作るよう心がけている		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の中でモニタリングし、新しい介護計画の原案をたて、それをもとに管理会議で話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映したうえ、最終的に本人に確認していただいている	介護計画は2ヵ月に1回見直しをしている。入居者2名ずつを担当し、週1回の管理会議で検討して新たな計画を作成する。モニタリングは2ヵ月に1回、日々の焦点情報を拾い上げて行っている。	課題として挙げられている目標の達成期間を設定してほしい。対応策としての具体的な項目がどれだけ達成できたのか、モニタリングで項目ごとに記録すると分かりやすいのではないか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画にもとづき実践、モニタリングし、気づいた事は、個別記録に記入。それをもとに職員間で情報を共有しケアの充実を計っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や希望により、良いと思われる新たなサービスも視野に入れて取り組んでいる		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の買い物や自治会の活動に参加し、地域社会に溶け込めるように努めている		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は、家族･本人の了解のもとで、かかりつけの内科医院を中心に受診している。他科については、定期的に通院支援している	皮膚科など、かかりつけ医への受診を支援している。場合によって通院の介助をし、主治医に状況を伝え指示を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師と日常的に情報交換しながら適切な支援が受けられるようにしている		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や治療開始や退院の目途など受け入れ等、病院関係者との情報交換を行っている	入院時はＡＤＬなどの情報を伝えている。入院中は見舞いに行き、状況の把握に努め、ソーシャルワーカーより退院時期などの情報を得ている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院者個々の状態と重度化した場合の支援の内容など、家族と相談し医療機関と協力して取り組んでいる	看取りの事例を2例持つ。看取りの指針があり、本人･家族の希望に沿って、協力医の意見も受けながら支援している。所長が看護師であること、24時間協力医の対応が可能なことなど、終末期の体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当マニュアルを作成している。感染症対策は定期的に行っているが新入職員を始め、すべての職員が出来ているとはいえない		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災時の緊急マニュアルにもとづき避難訓練を行っている。他の災害についてもマニュアルを作成し、いつでも見られる状態にしている	年1回、夜間想定で避難訓練を実施している。消防署員立ち会いで、通報･初期消火の訓練も行っている。避難訓練には近隣住民も参加し、近隣5件には非常時の協力を要請している。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から入居者がどんな思いで生活しているかを知ったうえで、個々の思いを受け止めている。また、全面的に支援が必要な入居者の方に対しても、職員は常に介護をさせていただいているという気持ちを持つよう努力している	誇りやプライバシーに配慮したケアを提供できるよう、職場内研修を実施している。また、自分が介護を受ける立場ならという視点で、日々のケアの適切性を定期的な学習会で振り返っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	施設での生活において、本人が常に何がしたいか言いやすい雰囲気作りを心掛けている。また、意思の表出が困難な入居者に対しても、本人が何を求めているか、表情や行動から発するサインを感じ取れるよう職場全体で努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定が可能な入居者には、できるだけ今までの生活や生活リズムに近づけるよう支援している。また、意思の表出が困難な方にも気持ち良い一日が送れるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	所持している衣類や化粧品などでお洒落ができるように支援している。また、お洒落がしたいという気持ちが持てるよう、外出する機会を作るよう努めている		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの力に応じて、できる事できない事を見極め、食事準備や後片付けを行っていただいている	半調理済みの食材を利用し、下ごしらえ･盛り付け･配膳･洗い物などを一緒に行っている。時にはリクエストに応じて買い物から参加する機会もあり、お好み焼きを調理するなど、柔軟な支援を行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日に必要な水分量を確保できるよう工夫している。食事の形態は、個々の状況に合わせて工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じて口腔ケアを行うようにしているが、拒否されてしまう場合もあり、できるような工夫が必要		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	以前まではオムツを着用していた方も、排泄パターンを知ることで、現在は布パンツにパット着用で日中は生活できるようになった入居者が複数名いる	出来るだけ排泄の自立につなげるため、個々の排泄パターンや水分量をこまめに分析している。要介護5でも布パンツにパット着用で日中の生活を送る事ができる入居者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	家事や体操、食事や水分摂取などを通じて、個々に応じた予防に取り組んでいる。重度の方にも座位で排便ができるように取り組んでいる		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全面的に介助を要する方は、こちらで時間を決めて行っている。一部介助または自立している方は、本人の希望を聞き、好きな時間に入れるよう支援している	リフトを使って全面介助する入居者以外は、基本的に夜間を含めて好きな時間に入浴できる。入浴拒否のある方については、声掛けやタイミングを工夫し、気持ちよく入浴してもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、活動的にすごし、夜は安眠できるよう支援している。また、昼寝は必要最小限にするように心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬袋に説明書をいれ、薬の作用や注意事項がいつでも見れるようにしている。また、状態の変化への対応など、全職員に周知できるよう記録や口頭で申し送る		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な限り、本人の生活歴にもとづいた役割などを作り、充実した生活が送れるよう支援している。それ以外にも新しい事などにチャレンジする機会を作るように努めている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人からの希望があれば、職場の業務を調整し、出かけられるよう支援している。また、家族との外出やレクリエーションなどで入居者の方が行きたいといわれる場所に行けるようにしている	一人ひとりの希望に沿って出かけられるように、職員業務を弾力的に調整できるよう努めている。天気の良い日に散歩をしたり、お弁当を持って近くの明石公園に行くこともある。	管理者の希望でもある旅行が実施されること、また家族を巻き込んだ外出がさらに実施されるように期待したい。

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が困難なため、買い物に行く時にお金を渡し、使っていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使って家族と連絡できる方は、自由に使っていただいている		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間に季節を感じられるような物を置いている。また、室温管理には注意をはらっている	共有空間は、家庭の居間のような雰囲気である。共有空間から外に出られるデッキがあり、五感で自然を感じられるような造りとなっている。また、アセスメントに基づき、入居者が見て安心する写真やぬいぐるみ等が置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席とは別に、ソファや椅子を設置し、入居者が思い思いにすごせるような環境を整えている		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面に配慮しつつも本人の希望を聞き、好きな物、馴染みの物などを置き、本人が心地よくすごせるよう支援している	安全面や介護度に配慮しながら、本人が使っていた家具や、好きな歌手のグッズなどの持込みがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内は、できるだけ手すりを付けなくても入居者が安全に歩けるよう家具などを設置し、一人ひとりが可能な限り自立した生活を送れるように支援している		